

目 次

1	総論	1
2	研究の概要	2
2.1	既往研究の整理	2
2.2	本研究の概要	7
3	分析の条件	10
3.1	分析用データと分析対象範囲	10
3.2	分析指標	10
4	時間交通容量別時間交通量と旅行速度の関係	13
4.1	時間交通容量別センサス区間数	13
4.2	ピーク側時間交通量と旅行速度	14
4.3	時間帯別旅行速度の推計	17
5	交通量・設計交通容量比 (Q/C_D) と時間交通量 (V_S) の組み合わせによる交通状態と事故発生状況	19
5.1	交通状態と当事者別事故率	19
5.2	交通状態と道路形状別・当事者別事故率	25
5.3	交通状態と道路形状別・当事者別・事故類型別事故率	36
6	交通状態と区間要因の関連性	62
6.1	交通状態別当事者別交通量	62
6.2	旅行速度に関連する要因	66
6.3	交通容量に関連する要因	71
7	危険な交通状態の出現頻度からみた危険度の評価方法	77
7.1	基準事故率と実事故率	77
7.2	2つの事故率による危険度の評価方法	83
8	ネットワークにみる危険な交通状態の現れ方と危険度の評価	87
8.1	宇都宮市の概要	87
8.2	宇都宮市 (DID) のネットワークと道路交通現況	91
8.3	危険な交通状態の現れ方と関係する要因	111
8.4	基準事故率と実事故率による区間の診断と安全対策の考え方	125
9	まとめ	143
9.1	本研究のまとめ	143
9.2	今後の課題	145